

第3回 京丹後市社会教育委員会議（会議録）

日時：令和5年1月19日(木)午後2時～3時45分
会場：大宮庁舎 4階 第2・3会議室
出席：中山・菅生・田中・稲本・山副・野村・中江
藤原・折戸・藤村・和田・岩田・室井・上田
欠席：橋垣
傍聴人：0

次第

1. 開 会
2. 開会あいさつ
京丹後市社会教育委員会議 議長
京丹後市教育委員会 教育長
3. 協議事項
(1) 令和5年度社会教育推進の重点について (資料 No1)
4. 報告事項
(1) 新たな地域コミュニティ推進事業について (資料 No2)
(2) 地域探究学習「丹後学」について (資料 No3)
(3) 京丹後市はたちを祝う式典について (資料 No4)
5. その他
6. 閉会あいさつ
京丹後市社会教育委員会議 副議長

【会議録】

- 安達課長 定刻になりましたので、ただいまから令和4年度第3回京丹後市社会教育委員会議を開催させていただきますと思います。本日は委員の皆様から欠席のご連絡はいただいておりますので、橋垣委員様も少し遅れて来られるのではないかと思いますけれども、時間になりましたので始めさせていただきますと思います。
- 中山議長 それでは、まず最初に、京丹後市社会教育委員会議長であります、中山議長様よりご挨拶をよろしく願いいたします。
- 中山議長 今のところ、雪のない新年を迎えることができ、本当にうれしく思っております。本日は、ご多忙のところ令和4年度第3回京丹後市社会教育委員会議にご出席いただきありがとうございます。まだまだ新型コロナの勢いは衰えていませんが、感染対策をしっかりと、ウイズコロナ、ポストコロナで、コロナ禍の中でもしなければならぬことはしていかなければならないと思っています。
- 安達課長 11月の第2回社会教育委員会議の前に視察研修と少人数でのテーマに沿ってグループ討議をしました。本音で話し合えることができ、そのあとの会議も盛り上がりました。対話する研修は本当に大切だと感じました。
- 中山議長 今年度の丹後社教委連の研修は、府の大会が京丹後市で開催されましたので、府の大会に置き代わりました。地元開催ということで、代表してパネラーを務めさせていただきましたが、時間制限をされておりましたし、人の実践なので十分なことが言えませんでした。申し訳なく思っています。
- 安達課長 本日は、来年度の「社会教育推進の重点」について、それから京丹後としての大きな課題である「新たな地域コミュニティ推進事業」、それから教育長さんが命名された「丹後学」と、重要な課題がいっぱいありますので、皆様方の忌憚のないご意見を賜りたいと思っています。どうかよろしく願います。
- 中山議長 ありがとうございます。それでは続きまして、京丹後市教育委員会松本教育長よりご挨拶申し上げます。
- 松本教育長 はい、皆さんこんにちは。少し遅くなりましたけど、本年もどうぞよろしくお願いいたします。
- 中山議長 先ほど議長さんからもありましたように、先月の中旬頃には寒波がやってきて、この冬どうなるかなと心配しておりましたけれども、年末年始は比較的穏やかな陽気で、生活していく上でも本当にありがたいなというふうに思っているところです。
- 安達課長 また先週末には、大学入学共通テストが峰山高校を会場として初めて実施され、受験した京丹後市の高校3年生も、自宅から会場に向かうことができ、しかも慣れた場所が会場となることで落ち着いて試験に臨めたのではないかなと感じております。
- 中山議長 また当日の天候も心配しておりましたけれども、先ほども言いましたように気候も気温も高めで、大きなトラブルもなく実施ができ、教育委員会としましても大変安堵しているところでございます。
- 安達課長 しかし、来週からはいよいよ本格的な寒波というような予報となっております、学校園所の登下校や社会教育活動に影響が出ないよう除雪等についても、市長部局と連携して対応していきたいというふうに考えております。
- 中山議長 またコロナの状況ですけれども、年が明けても依然落ち着きが見られず、今日現在で小学校2校、2クラス、中学校1校で2学年が、学年閉鎖をしているという状況になっております。
- 安達課長 まだまだ感染の勢いというところまではいきませんが、完全におさまったというような事ではない状況になっておるところです。
- 中山議長 またインフルエンザも入り始めておまして、寒い時期でありますけれども、換気に十分注意しながら教育活動を進めていただくよう、学校現場とも連携しながら取り組みを進めているところです。
- 安達課長 また、中学3年生にとっては、私立高校入試も2月中旬さらには前期選抜もシーズンとなりますので、各学校での教育活動や社会教育活動についても感染を広げないよう、これま

で同様必要な対策については取っていかねばならないということで、それについても、学校現場と確認をしているところであります。

本日の会議は、来年度の社会教育推進の重点等について協議いただく事となっております。また、本日配付しております資料の中に、令和4年度京丹後市教育フォーラムの案内チラシが入っていると思いますが、京丹後市の子どもたちに育みたい資質能力と、その力を京丹後市としてどう育んでいこうとしているかということについて、教職員だけでなく、保護者や市民の皆様にも広く理解していただく機会として、この教育フォーラムを設定しております。

以前聞かれたお話もあるかと思いますが、平田オリザ先生の育みたい資質能力に合わせた講演についてもお願いすることとしておりますので、ぜひ、社会教育委員の皆様には、1月22日午後2時からというふうになっておりますので、ご出席いただきますようお願い申し上げます。開会のご挨拶とさせていただきます。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

安達課長 ありがとうございます。それでは議事に入りたいと思います。この後の議事につきましては、中山議長様にお願いしたいと思います。よろしくをお願いいたします。

中山議長 それでは、協議事項(1) 令和5年度社会教育推進の重点について、事務局より説明をお願いします。

安達課長 ※説明

委員 3ページなんですけれども、ここの3行目のところ、この「ウイズコロナ・ポストコロナ」のところは、これは「新型コロナ」でいいんじゃないかなと思うんですが、どうなんでしょう。どんどんまた変化していくというか、呼び方を変えていったという感じだけなんで、ポストとかウイズとか。だからこれはもう「新型コロナ」でいいのかなって思うんですけれども。

それとページ7の「重点2 人権教育の推進」のところ、これはもう変えなくてもいいと思ったんです。というのが、一番下のところなんですけれども、「実践につながる主体的な学習活動を推進する。」これはすごくいい文句なんで、これを左の方の「人権教育の機会を提供する。」、それと置き換えて欲しいなと思います。それから、ページ10、「重点4 文化芸術の振興」のところ、5行目なんですけれども、ここのところで「いかすこと」っていうところがありますね。そこへ入れて欲しいのが、「いかし合い、信じ合い、睦み合う」ことで、誰もが「愛着」と「誇り」を実感できるまちづくりを目指すというふうにして、「信じ合い、睦み合い」を「いかすこと」のところに入れて欲しいと思います。

中山議長 重点3までについて聞いていたんですけど、重点1.2.3までのところで、皆さん方から他にもありませんか。

委員 5ページの(6)の「ICT、デジタル技術の活用を図ります」のここだけが、「ます」になっているので、文末の統制が必要じゃないかなと思いました。以上です。

中山議長 他には質問意見ありませんか。はい、どうぞ。

委員 6ページの4の「(1) 電子図書館の導入等」というのがあるんですが、これはどういうことを意味しているのかというのをちょっと教えていただきたい。

中山議長 いろいろと出てきましたけれども、事務局の方で説明をお願いします。

安達課長 はい、ありがとうございます。順番にいきたいと思います。

まず3ページ目の「はじめに」というところで、「ウイズコロナ・ポストコロナ」というところが、「新型コロナウイルス」ということですね。「ウイズコロナ」と「ポストコロナ」の「ウイズ」と「ポスト」っていうのが、コロナウイルスのことではなくてウイルスがある環境といいますか状況のことを表している言葉になるので、そういった意味合いをつけたかったんです。ですので、コロナウイルス感染症が社会にある状態。そしてポストコロナというのは、転換していく状況・環境のことをお伝えしたい、表したいと思ったもので、このような表現にしておりました。そういった環境下での対応、そういうその時々に必要な対応をするべきということというふうに考えております。

新型コロナウイルスまでですね。おそらく言葉としてウイルスまでつくのが正しいかなと思っておるので、ちょっと言葉を調べまして、はい。ちょっとこれは考えさせていただけたらというふうに思っております。

中山議長 今の件はこのままでいいと思いますけれど、今後はウイズコロナ・ポストコロナ、今後どうするかというのが重要になってきますので、そういう状況を今後は、コロナコロナではなしに本当に一緒になって、終わった後どうしていくかっていうのも重要な課題になっていくと思いますし、今度5類になってくるとかなり状況がまた変わってくるのではないかと思います。

委員 変化していくっていうか、状況の変化に基づいたこれは名前なんで、元々の原点っていうのは新型コロナなんで、それでいいのではと思うんですけども。対応の仕方によってこういうふうに、ウイズコロナというのはコロナとともにっていう意味ですよ。そういうふうに変化していったってということなんで、言葉としてこう変わっているだけであって、元の言葉で言ったら新型コロナでいいんじゃないかなというふうに思うんですけども、どうなんでしょう。わざわざこんな変わっていくウイズコロナ・ポストコロナなんてしていかなくても、元のこの新型コロナが原点なんで。でもそんなにあれです、読んでてちょっと修正しなくてもいいのではないかなと思ったんで、ちょっと言わせてもらったんですけども。

中山議長 今後が大切なんでこれでいいと思うんですけど。

委員 そうですか、はい。

安達課長 ちょっと言葉の意味合いをもう一度しっかりと確認をいたしまして、ここに表記をさせていただきたいと思います。ありがとうございます。

続けまして5ページです。5ページの文末の語尾を合わせるものは、合わさせていただきたいと思います。ありがとうございます。

そして次の6ページで、電子図書館の導入等ということをお願いいたしました。電子図書館というのは、図書館を訪れて図書・書籍を借りるというやり方ではなくて、いわゆるオンライン上で、パソコンやスマートフォンの中で、専用の図書館サイト、電子図書館サイトというのを作りまして、そこから図書館に行くことなく使うことができる、借りることができる。そして、その画面の中で、書籍を読むことができるというようなシステムになります。

それこそ新型コロナウイルスが感染症が広がってくる中で、外出を控えたり接触を控えるっていうような中で、結構全国で取り入れておられるところが多くなってきています。今京都府内で言いますと、舞鶴市や宇治市、福知山市、綾部市というようなところが電子図書館のシステムを導入されていたり、導入されるということが決まっているようなところがあります。

もちろん、京丹後市としては、立派な図書館・図書室が6つあります。そこには訪れて学習をしていただくというのは、一番求めているところではあります。その中で、広い地域の中で、なかなか図書館に向かえないですとか先ほど言いました、新型コロナウイルスで外出を控えるというようなところですか、あとはデジタルの本になりますので、例えば文字が読みにくい方は文字を大きくしたりもすることができますとか、あと読み上げの書籍もあるとか、そういった図書館に行きにくかったり使いにくかったり読みにくくなったりするような人にも、やさしいシステムであるということで、図書館を利用する図書に親しんでいただく、もう1つの新しい窓口・入口というような意味合いで、こういったものの導入も検討をしていく時期ではないかということで、ここに書き入れさせていただいております。今これを導入することが決まったというわけではなくて、かなりこれも高額なシステムになりますので、よくよく検討が必要なものだということになっております。説明足らずだったと思います。ここは以上です。続けてもよろしいでしょうか。

「実践につながる主体的な学習活動を推進する」というこの言葉が良いですねとおっしゃっていただきました。ここの組み合わせがうまくいきますように、もう一度考えさせていただけたらというふうに思っております。そして、ここまでですかね。はい、以上です。

中山議長 続いて、4、5、6で何かありましたら、意見・質問等ありましたらお願いします。はい。

委員 素人目に見て、真っ赤っ赤だなと思いました。本当に真っ赤で、左読んだり右読んだりっていうのがなかなか理解できなくて、新しい言葉もいっぱい出てきているんですよ、「丹後の光」とか。ちょっと前の重点になりますけど、「新しいコミュニティ」とかちょっと難しいので、具体的に教えていただきたいなと思いました。

中山議長 他にありますか。確かに真っ赤です。「丹後の光」って新しい言葉で、読んでみていいなと思ったんですけど。4、5、6はいいですか、その他。はい、お願いします。

委員 12ページの2のところで、「丹後学」っていうのが入ってよかったなっていうことが言いたかったんです。

中山議長 それから、13ページの(4)のスポーツのところなんですけれども、ここに「障害のある人もない人も」っていうふうに変えられた。これ、よかったですね。これすごくよかったんでそこまで言いたかったんです。すいません。

中山議長 ありがとうございます。4、5、6、7を事務局の方でお願いします。

安達課長 はい、失礼いたします。

委員 まず、重点4、10ページです。「文化芸術の振興」のところで、「信じ合い、睦み合い」という言葉を入れてはどうかとおっしゃっていただいております。ここも文脈として入れられるようにちょっと検討させていただけたらというふうに思っております。「いかすことでのいかし合い」ということですね。

中山議長 いかし合い、信じあい、睦み合う

安達課長 睦み合うで、「いかす」のところを、入れ替えてはどうかということですね。

委員 それが入ったら、いいなと思いますんで。

中山議長 またこの文化芸術振興計画の中での文言と照らし合わせながら、順番なども。「育む・つなぐ・活かす」というような言葉を計画の中では使っておりまして、そことも通じるところがあるかなと思いますので、ここは並びなど、言葉入れを考えさせていただけたらというふうに思います。ありがとうございます。

安達課長 そして、重点5のところで、「京丹後の光」のところ、すいませんちょっと聞こえにくかったものでもう一度お願いします。

委員 言葉の意味を教えてくださいたいのと、「光」はすばらしい言葉とは思うんですけど、どう理由で「光」という言葉を選ばれたのか。

中山議長 わかりました、すいません。ここは、文化財保護課で作っていたものでしてすいません。

安達課長 引野次長 この11ページの「光」っていうことですけど、この「1」の説明が5行ほど書いてありますが、確かに突然「光」ってなんだろうということなんですけど、4行目あたりに、「歴史文化や文化財を京丹後市の煌めく魅力としての「光」と捉え」と。要は、歴史文化や文化財を「光」というふうな表現で、この文化財保存活用地域計画の中で表現を今回したということなんです。「光」という将来に向けての明るいそういったものだというような象徴的な言葉に置き換えて、表現しているという事で、パッとここに「光」といきなり出てくるとなんだろうということなんですけども、その計画の言葉をそのままこの重点の中に使わせていただいたという事です。わかりにくいとかそういうご意見があればまた聞かせていただきましたらいいかなと思いますが、理由はそういうことです。

中山議長 ありがとうございます。また続けてお願いします。

安達課長 はい。そしてもう一つ言葉でというところでした。「新たな地域コミュニティ」ということだったと思います。この後、報告事項の方でもあるんですけども、人口減少ですとか高齢化ということで、各区ですとか自治区っていう自治会というようなところの運営がなかなか難しくなってきたという中で、新たな仕組みですとか、範囲ということの動きが必要ではないかと、中身も含めてですが、そういったことで使わせてもらってる言葉になります。またこれは、後でご説明等させていただきたいと思っております。ありがとうございます。

中山議長 あとは「丹後学」と「障害のある人もない人も」という言葉はよかったですということで、お褒めをいただきました。ありがとうございます。

中山議長 4.5.6はもう以上でいいですか。すいません。はい、ではお願いします。

委員 すいません。文化芸術振興のところですけど、去年の重点は4番のところの文化芸術等が多分、今年のは(3)に意味合いが変わったかなっていうふうには見えるんですけど、大きく括り直したというのは何か意図があつてですか。

安達課長 はい、今回文化芸術振興計画というのを決めました。その中で6つの基本方針というのを作っておりまして、それに合わせた説明の仕方に作り直したもので、このような(1)(2)(3)(4)(5)(6)のつくりになっております。今委員おっしゃったように令和4年度

の重点の（４）の、例えば文化会館とかその活動拠点のことにしましては、この新しい方で言いますと（３）の方に入っております。

計画の方では具体的に、実は書いております。

中山議長

いいですか。ありがとうございます。それでは最後、7について何かありますか。

本当に、社会教育推進の重点について貴重な意見をたくさんいただきまして、本当にありがとうございました。また今後も、今出た意見を基にしてまた修正もあるかと思えますし、本当に、社会教育委員としての重責を果たしていただいたと思って、うれしく思っています。ありがとうございました。それではこの「推進の重点」については以上でいいでしょうか。

それでは、続きまして、報告事項「（１）新たな地域コミュニティ推進事業」について説明をお願いします。

事務局

※説明

中山議長

ただいまの事務局の説明に対して、ご意見・ご質問ありましたらどうかよろしく願います。

本当に地域各町によってすごい違いがありまして、進んでいるところや、全くこれ知らないっていう人もいるかもわかりません。特に峰山は知らないですね。6年前から区長は話を聞いていたんですけど、1年2年で変わっていくのでそのまま立ち消えになって、この前、久美浜の佐濃地域が6年前から頑張っておられるのを見て、びっくりしました。急遽峰山も区長が集まりまして、峰山東地区も市民局と話し合っているところです。まだまだこれからではなくて、あと2年間しか余裕がないってことで火がつきまして、事務局を置こうとかか事務員。急にというか、本当に峰山は全く蚊帳の外というか、何もなかったです。本当に佐濃や進んでるところを見てびっくりしました。えーって感じで、できてるんだって。区長もまだ何も意識もないし、ほとんど頑張ります峰山とか。もうかなり進んでるところなんか入ってやっておられるんですね。何か質問とか意見がありましたら。

現在ある区をそのまま残してやるってところがいいんで。区を消滅するのではなしに、昔、峰山も小さい区がいっぱいあるんで合併しようかっていう話があったんですけど、立ち消えになって、財産があったりとか難しいんで。

区はそのまま残してやっていこうってところが素晴らしいなと思いました。本当にこれからまだまだ勉強させてもらいます。頑張っていきたいなと思って。他の皆さん方がいいでしょうか。はい、どうぞ。

藤原副議長

1つまず行政区という言葉があるんですけども、これは、それぞれの集落のことを意味している、なぜ行政区となるのか、自治会ですよ。

私も区長をやってまいりましたが、行政区という認識はなかったんですよ。自治会だと思ってやっておりました。ただこういった文書を見ますと、行政区ということが出てきまして、行政との関係はありますけれども、あくまでも、そこの住民の自治会なんです、それは何でこういう言葉になるのか今1つちょっとお聞きしたいと。

中山議長

これは僕は行政区だとばかり思っていました。行政との繋がりがあって。

安達課長

役所では、行政区という言葉を使いますね。集落といいますか、はい。

中山議長

峰山にはいっぱいありますけど。

安達課長

なぜ行政区というか。

中山議長

自治会。

藤原副議長

自治会ですよ。

中山議長

そうですか。行政区とばかり思っていました。自治会なんて言ったことないです、峰山では。

藤原副議長

それともう一つ、野間地域が今ステップ2ですか。

確かに地域はもう人口減少で、集落がなんか隣組ぐらいの数しかないとかいうような形で、そういうような中では、この計画でこう言ってるんだと思うんですけども、この公民館活動というのはどうなるのか。そのお金が再編して一括交付すると書いてありますけれども、進んでるところとそうでないところ。それと組織が公民館というのはもう残らないのか、ちょっとなんかよくわからないし、私はあまり組織をたくさん作って、役員のなり手

がないんですよ。だから、それとジェンダーの関係もありまして、今もう全部男社会ですよ。ちょっと私も資料見てたんですが、日本でもすごく、世界の中で言うても 100 何番目。だからそういうところにもこう入れていかないと。

組織をこう作っても、これはもう男性の仕事、区の区長会でも、女性がいないですよ。で、区でも役員は男性。お寺の役員も、お寺はちょっとあれかわかんけど、まず男性。だから、ジェンダー平等という話で、こういった地域社会を考える上で、このジェンダー平等という辺りを考えていかないと、もうクウォーターでやるとかですね。一定の割合はもうこうするんだというようなことがないと、女性の方は元気だし、コミュニケーション能力が高いし、きちっとそういう部分が、もっと取り入れられていくべきではないのかなと。

それと、人口減少、人口減少言いますけど、明治の初期、5 年ぐらいは、資料ないんですけど、日本の人口で 3800 万ぐらいで約 4000 万。今 1 億 2000 万ですから、4 倍ですよ。だから減少、減少というのは最近の話であって、ちょっとその一方で脅迫されてるような感じがして、大変だ大変だということじゃなしに、人口が減る要因というのはたくさんあると思うんですよ、少子化ですから。そこを、そういうことも考えて、どうしたらみんなが幸せに暮らしていけるのかというのがないと、数を集めたらいいかということ、それだけではないんじゃないかなというふうに思います。

中山議長

はい、ありがとうございます。この新たな地域コミュニティの取り組みでも、男性社会っていうか、男性中心だっていうのは見直そうっていう機運がものすごくありまして、女性を入れていこうとか、私も区長ですけど来年度女性役員入れましたし、女性の役員がなかったら活性化しないってことで決めてもらいました。

そういうようなこともやってますし、今現在の問題なのは、高齢者が多すぎるっていう意味で、子どもが少なくて、人口減少っていうよりも。高齢者の割合が多すぎるっていうのはどうかな。

今現在そうなっていると、自分ももうすぐ後期高齢者になりますけど、そこら辺が何とかもうこのままではちょっとっていうところもありまして、これからの課題でまだどんどん今途中なんで、いろんなことが。それに、これに全部合わせっていうんじゃないしその町独自のやつをしていこうという、今までの文化を残してっていうことなんで、今後の課題ですねこれ。

事務局

はい、ありがとうございます。今、副議長様からご指摘いただきました公民館活動はというところですね。こちらにつきましては、こういった新たな地域コミュニティの中でも、生涯学習部会とか、公民館活動を継承していただけるような形を作ってもらい、引き続き公民館活動を実施してもらおうと思っております。

公民館活動として実施いただく部分も、地域活性化活動として取り組む部分もすべてまとめまして、この地域コミュニティの一括交付金ということで移行をしたいというふうに思っております。新たな地域コミュニティで、一括交付金を活用し、公民館活動もしっかりとやっていただけるように進めていきたいと思っております。

今ご意見がありましたようなジェンダー、女性の参加ですとか、そういった人口減少現象という中で、地域の魅力をもう一度見直し、女性の意見をしっかりと反映させたり、もっとこういうふうにしたらいのこの部分、いろんな意見の言いやすい雰囲気を各地域で作って、それぞれの地域が人口減少を少しでも食い止められるような、地域の様々な活動が持続していけるような形で、新たな地域コミュニティの推進をしていきたいと思っております。以上です。

中山議長
委員

はいどうぞ。

私は久美浜の湊地区なんですけど、湊地区がステップ 1 で、去年、コミュニティ準備委員会というのを立ち上げて、準備委員会に入りませんかって区民全体に募集がかかったんですよ。私は、社会教育委員も受けているし、入らなあかんかなと思って入りまして、で、実際は女性が私と事務局の子と 2 人だけなんで、やっぱり男の人ばかりだなと思って、今一生懸命準備委員会に女の人を誘うように努力はしてるそこなんですけど、ただ準備委員会は、女性は事務局と私と 2 人ですけど、ただいろんな行事をすると、女性の参加者の方が多いことが結構あるんです。みんなでトーク、話し合いをしましょうとかという

ことになる結構女性の参加が多くて、役員だとか準備委員会だという、そういうのだと女性にとってやっぱり敷居が高いっていう思いがまだあるのかなと思って、ちょっとずつそういうのをとっばらっていくて、地区の中にもっともっと女性の声が入るようにしたいなと今思ってるところです。

でも、湊は小学校がもう統合してかぶと山に子どもたちは行って、今はないので、その湊地区の子どもたちだけで集まるのが、前は夏祭りとかしてましたけどコロナでできなかつただったので、秋に、もう本当に何年かぶりに子どもたちが集まる行事をしたんですけど、そしたら若い方、お父さんお母さん、準備委員のメンバーよりも、PTAや、若い人たちが多かつたり、その子どもたちの集まりをするために、別組織の「ぎょそん戦隊」というのを作って「ぎょそん戦隊ピチピチ祭」というのを実施したんですよ。若い子たちの30代ぐらいの子たちが中心でやってくれるかたちを作ったので、そういういろんなアイデアを出しながらして、少しずついろんな人の声が入るようになっていきました。これまではもう区長さんたちと役員さんたちだけでやってたので、私たちの意見なんかとてもとても思っていましたけど、ちょっとなんか、まだステップ1で始まったばかりなので、これからなんか婚活やろうとかいろいろ今アイデアを出してるんですけど、そういう状況です。

中山議長 ありがとうございます。貴重な意見いただきました。本当にうれしいです。ありがとうございます。

委員 組織づくりについては計画的に進められているんですけども、その地域の意識改革を合わせてやっていかないと、器はできたけど中に参加する人がどれだけいるのか、それを運営していくとある力があるのか、やはり合わせてやっていく必要があるんじゃないかなと思います。浅茂川地区なんですけども、こないだから丹後のびのび体操を取り入れてやっただけなんですけども、やはり人数の割には参加者が20何人というあたりで、それをまだまだ知らない人、それからなんか書かされるからいらんわっていう人。でも、何年か後にそういう年齢ばかりに、2人に1人とかになっていくということになると、誰がそこを運営していくのか。

若い人は仕事せんなんで誰が面倒見てくれるのか。

この社会教育委員会でもそうだなと思うんですけども、みんなが集まらなければ何も始まらない。私はシルバーサロンもしてるんですけども、誰がどういう形でやるのか、回覧版をまわしたら集まるもんでもないんです。やっぱり、そのやり方とかをいろいろと変えてみるんですけども、なかなか難しいのが現状で、でもやっていかなあかん。

赤ちゃんのサロンもやってるんですけども、赤ちゃんは増やそうと思っても、なかなかそれは無理なことなんですけども、年寄りさんとか高齢者はそこら辺にいっぱいおるわけで、その辺りの地域の意識改革をするための核づくりも何か合わせてやっていくべきじゃないかなと思うんですけども、それは誰がやっていくかって言うたら、区の役員さんかかっていうたらそればかりではないと思うんですけども、やっぱりいろんなものをこう合体したのを持っていかないと、地域コミュニティは、こうだからやりますよ。じゃあ、誰がするってことになるんじゃないかなと思って。

私らでもだんだん体が動かんようになりますしできんようになりますし、でも、この地域に住んでよかったなって、「京丹後の光」って素晴らしい言葉だと私はなんか震えるような思いで読ませてもらったんですけども、やっぱりそれを自分たちの時代だけでなく、次につなげていくっていう意識も、なんか高齢者が示さなあかんのじゃないかなと思いました。

中山議長 ありがとうございます。すごいです。また機会があったら、地域でこれについて我々社会教育委員としてどのような活動をしているかというのを交流する機会があればいいかなと思いました。また話し合ひましょう。

新たな地域コミュニティについてまだいろいろあると思いますけど、ちょっと時間が来ていますので、ここでちょっと5分ほど休憩させていただきます。

中山議長 はい、本当に新たな地域コミュニティについては、推進に向けて貴重な意見をたくさんいただきまして、本当にありがとうございます。

また今後もこれは続いていきますし、また皆さん方も社会教育委員として頑張ってください。

などと思います。

それでは続きまして、地域探究学習「丹後学」について事務局よりお願いします。

澤居指導主事 ※学校教育課 澤居指導主事 説明

中山議長 ありがとうございます。丹後学について説明していただきましたけれども、何か質問とか意見ありましたらお願いします。ありませんか。はい、お願いします。

松本教育長 今澤居指導主事から説明がありましたけれども、そうした地域の学びによって郷土愛ってというようなところの大きな視点も1つあるんですけども、もう1つは、キャリア教育と言いまして、自分の将来の生き方を考えるという視点も1つ持っておりまして、例えば、小学4年生では「2分の1成人式」というような形で10歳の段階で自分の今後のあり方を考える、そういう時間を取ったりですとか、中2、中3ぐらいで各学園違いますけれども「立志式」とかいう形で、15歳の将来の自分について今後考えていくとか、そういうキャリア教育という職業教育といえますか、そういうところの部分の視点も合わせ持った形で進めていこうというような形で、丹後のことを学んでいくことがその職業や今後の自分の生き方ってことを考えることにもなるのですけれども、そういうピンポイントの学年においてはそうした学びもしているという、2本立てでやっているということでございます。

中山議長 他に質問はありませんか。はい、お願いします。

委員 すみません。年間20時間という事なんですけども、例えば1年生だったら、こういうことについて20時間費やしてとかそういう意味でしょうか。

澤居指導主事 失礼します。丹後学自体が、総合的な学習の時間という領域の中でしている学習ですので、そこに地域という縛りを入れたということが基本です。一応1・2年生は総合的な学習の時間という領域は、教育課程上なくて、1・2年生の段階では、生活科という学習になっておりますので、丹後学自体の学びのカリキュラムは3年生から中学校3年生までとなっております。

一応、現行の28年度に作成されましたモデルカリキュラム、これでは、小学校4年生では、丹後ちりめんを学習テーマとして扱いますよとあると、5年生ですと社会科の中でお米づくりとかが出てきますので、その社会科の学習を出発点にしながら、総合的な学習とか丹後学として、丹後の米づくりについてされるとか、先ほど教育長の方からありました、中2、中3段階では立志式とか、名称は学校によっていろいろですけど、そういったものを学年ならではの内容として計画的にされているという形で今は進んでいます。

ただちょっと改訂によって、そういう学年とテーマの結びつき自体をどういう扱いにしていくかは今検討中です。

委員 わかりました。やっぱり地域で子どもたちに、昔からのこととか丹後独特のこととか、それから産業とかそういうことについてなかなか教える機会がないような気がするんで、やっぱり学校でそういうことを教えていただけるのはすごくいいことだと思いますし、また、子どもたちがそういうことを勉強したことによって、大きくなって自分はこういうことをやるのかなとか、そういうふうにつながっていったらすごくいいと思います。

中山議長 これも地域の人の協力があつたらできることで、本当に地域の人で詳しい人がいたり学校のために喜んで行ってあげて子どもと接したりとか、本当にそういう人たちにお世話になっているってことも感謝したいなと思っていますし、皆様の方で知ってるおられる人で、これはいいなと思うことを学校の方に紹介していただいたりとか、本当に頑張っていきたいなあと。実際学校の方に出向いてやっておられる方もおられると思いますし。

委員 指導目標っていうのがあるんですけども、これってというのは、一応このような中身を変更するってようなことはないんですか。その目標を定めたら学校の教育と一緒になんですけれども、1学年ではここまで達成しなさいっていうふうな目標ですよ。そういうふうな目標になつてるんですかこれは。

澤居指導主事 すいません。平成28年度版のこの丹後学の方では、今ご覧いただいておりますこの「丹後学の指導目標」というものは、丹後学自体の目標と総合的な学習っていうその領域の中で、こういう学習指導要領の中で定められたその領域の目標を合わせた形で、しかもそこに、その保幼小中一貫ということで、ご覧のようにこの1・2年生のI期、3・4年生のI期後半とかがついている形で、ある程度の学年のまとまりを作った上で、おおよそのベースになるような学びの系統性を作るということで、この目標設定がされています。

その中で、各学校で実際に担任の先生や、学校・学年単位で総合的な学習とか丹後学の授業づくりをされる時には、ここを踏まえた上で、その取り扱うテーマにより焦点化されたり、より効果が高そうな目標を設定するという中で、1つの単元、1つの学習テーマで、すべてここを達成するというよりも、小学校1・2年生の生活科から中学校3年生までの丹後学の学習の積み上げの中で、中学校3年生の時のこの目標が、1人でも多くの子が達成しているとか、近い状態で中学校段階卒業していくということ、長い目で指導をつなげながら、学びの経験を積み上げながら目指していくという、一応の目安としての設定ですので、すごく強い強制力とか、3・4年生の時にここに挙げられてる文言が達成されていなければ駄目ということではないということです。

委員 私の個人的な意見なんですけれども、子どもたちが今、個性を大事にするという多様化の考え方等が出ないと、将来、子どもたちが生きていく上で、やっぱり自分の考えをきちっと持っていくっていう方向に教育指導を転換してもらいたくなって思うんです。詰め込みじゃなくて、これだけは絶対に達成して卒業しなさいじゃなくて、最初からあなたは何に對して、何を考えて、何を目的とするのか自分で考える力、そっちの方に変えてもらいたくなって思うんですけれども。

澤居指導主事 このカラー刷りの1枚ものの現行モデルカリキュラムっていうところで、特徴・成果・課題っていうことがあると思うんです。その課題の△の1つ目のところに、今までも探究的な学習として丹後学の方は、各学校の方で実践積み上げてこられてたくさんの成果も生み出していただきましたが、どうしてもその委員のおっしゃるように、ちょっと知ることとか、触れることとか出会うことで、その学び自体が、地域のいろいろなテーマとか素材との学び自体が終わってしまうことがあって、そこに対して自分自身の考えを強く持つとか探すとかっていうところの過程までいってないということもあったんです。

なので、令和4年度、今年度ですけど、令和5年度、6年度に向けて使っていくモデルカリキュラムを改訂するところの方向性での②ですけど、その「探究の過程」情報を集めつつ、自分たち自身で問題・課題を設定して、それに対する改善策を考えていって、それを最初の出会い、課題のヒントを与えてくれた人に対して僕たちこんなこと考えたんだけどっていうフィードバックを返していく、そういう双方向な探究的な学習の過程、それが丹後学の中で、地域素材を扱うっていうことは、遠く離れたところの物事がテーマになるのではなく、すごく身近なところに、そのものとか場所とか人がおられるわけですから、そういう地域を扱う良さを、子どもたちが何かを実際に五感を使って吸収したり、それを自分の中で考えとしてまとめたり、誰かに伝えたりっていうような過程が活性化させるような改訂を今のところ進めているということです。

中山議長 はい、今の説明でよくわかりました。すばらしい目標っていうか取り組みをされているっていうのは、本当にうれしいです。本当に、この成果が出れば嬉しいなと思いますし、他にありませんか。じゃあ、ないようでしたら、これについてはもうこれでいいですか。

澤居先生ありがとうございました。

事務局 ※説明

中山議長 ありがとうございました。ただいまの説明につきまして質問・意見ありましたらお願いします。

昨年、午前と午後に分かれてたんですけども、1回で。

事務局 午前、午後ではなく今年度は、前のような状況で皆さん一度に集まっていただいて開催させていただきたいというふうに考えております。

中山議長 原案通りでいいですね。この通りまた進めて欲しいなと思います。よろしく申し上げます。その他ということで何かありましたら、皆さん方からでもいいですし、事務局からでもいいですけども、その他何かありましたら、教育フォーラムについてはいいですか。

事務局 それではどうもありがとうございました。

平成4年度の関係で、今年度丹後地方の「社協委連だより」ということで、本年度折戸委員さんに、だよりの原稿作成をお願いをいたしました。お忙しい中ですが、冊子の方の原稿を提出いただきました、折戸委員さんありがとうございました。

そして今年度は、山副委員さんにまた編集委員ということでお世話になっておりました、今度は1月23日に第2回目の編集委員会がありますが、またすいませんけども構成等よろしくお願ひしたいなというふうに思います。どうもありがとうございます。

あと今日、お配りをさせていただいています、最初に教育長様からもありました、1月20日の京丹後市教育フォーラムですね。こちらもちよっと天候は心配かもしれませんが、ぜひ京丹後市の教育について考えていただくよい機会になればということで、ご案内をさせていただきます。自主研修のような形でご参加いただけるとありがたいなと思っております。

それから本日お手元に、この平田オリザ先生の本をお配りをさせていただいております、「22世紀を見る君たちへ」。平田オリザさんの本を、丹後地方社会教育委員連絡協議会の方で、委員さんの研修用資料として委員さん用にお配りをさせていただきました。これまで実際に大学を見学していただいたり、いろいろとさせていただく中で、今度のフォーラムも平田オリザ先生の講演がございまして、また本も読んでいただいて、皆さんの社会教育活動の参考にしていただきたいと思います。

あと、その他「公民館だより」なども机に置かせていただいておりますが、またお持ち帰りいただいてお読みいただければと思います。

今年度の会議につきまして、今回3回目ということで最後になります。来年はまた5月ごろに第1回目、この任期期間の2年目になりますけれども、開催をさせていただきたいと思っておりますので、また日程を決めましてご連絡させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。どうもありがとうございました。

中山議長

その他何か皆さん方ありませんか。

ないようでしたら閉会挨拶を藤原副議長さんをお願いしたいと思っております。どうかよろしくお願ひします。

藤原副議長

本日は長時間のご審議、ご苦労さまでした。「令和5年度社会教育推進の重点」についての協議、報告事項としましての「新たな地域コミュニティ推進事業」、「丹後学」、「はたちを祝う式典」について、非常に活発なこの会議らしい雰囲気での会議だったかなというふうに思いました。

それから、先ほどありましたが私この本すでに読んでるんですけども、平田オリザさんは豊岡の日高町ですかね、住んでおられるのは。豊岡市に招聘されたような形で、活動されていて、この中に豊岡市の実践も入っております。

やはり前市長の中貝さんの時にこの方は来られているんですけども、やっぱりジェンダー平等のこと、女性が学校教育で大学へ行ってどうしたら帰ってくるかと、そういったことがなかなかできなかったと、気づくのが遅かったというようなことを講演で言ったりしておられますけれども、やはりそういう女性が帰ってくるようなまちを作っていくというのは非常に大事なことはないかと、そうなれば帰ってきたいと思うということですね。というようなことも含めてありますので、またぜひ読んでいただきたいと思います。

本日はどうもありがとうございました。

中山議長

これで終了させていただきます。どうもお疲れ様でした。ありがとうございました。気をつけてお帰りください。